

1 避難所

4月14日から7月17日までの約3カ月間、避難所を開設。
本震直後の避難者数は約8,000人、開設した避難所は13カ所になりました。



避難所・避難場所の状況

■開設した避難所・避難場所

種別	名称	一日最大避難者数	開設期間避難者延べ人数	閉鎖日
指定避難所	南部町民センター	300人	1,706人	6月10日
	菊陽中部小学校	260人	1,618人	4月30日
	東部町民センター	180人	1,754人	5月24日
	ふれあいの森研修センター	90人	1,306人	5月26日
	三里木町民センター	510人	1,903人	5月2日
	武蔵ヶ丘小学校	500人	3,049人	4月30日
	武蔵ヶ丘コミュニティセンター	200人	1,384人	5月2日
	光の森町民センター	1,250人	5,398人	5月31日
指定緊急避難場所	町民グラウンド	2,500人	4,955人	5月31日
	菊陽杉並木公園	1,010人	2,292人	5月15日
指定福祉避難所	老人福祉センター	230人	2,727人	7月17日
	ふれあい交流・福祉支援センター	175人	900人	5月17日

■一旦開設したものの、破損により閉鎖した避難所

種別	名称	一日最大避難者数	開設期間避難者延べ人数	閉鎖日
指定避難所	菊陽中学校	400人	610人	4月18日
	武蔵ヶ丘北小学校	424人	632人	4月18日
	菊陽西小学校	42人	42人	4月16日
	菊陽南小学校	26人	26人	4月22日

■開設できなかった避難所

種別	名称	開設できなかった理由
指定避難所	町民体育館	天井の破損によりアスベスト飛散の恐れがあるため。
	菊陽北小学校	天井を支えるボルトが抜け、落下の恐れがあるため。
	武蔵ヶ丘中学校	天井を支えるボルトが抜け、落下の恐れがあるため。
指定福祉避難所	福祉支援センター	天井を支えるボルトが抜け、落下の恐れがあるため。
	菊陽町図書館ホール	天井が落下したため。

2 車中泊

熊本地震での特徴的な行動として、車中泊が挙げられます。本町でも多くの車中泊を確認できましたが、その全貌を把握することは不可能だったことから、町内の全世帯を対象として平成29年7月に実施した「復興まちづくり計画に関するアンケート調査」に車中泊に関する質問を設けました。それによると、車中泊を行ったのは避難した世帯の53.5%、そのうちの41.6%(全体としては22.3%)は自宅敷地内での車中泊だったことが分かり、その期間は、前震発生から週明けの4月17日までの1~3泊が最も多く、次に多かったのは本震から1週間後となる4月24日までの4~10泊でした。

また、近隣の商業施設の駐車場を車中泊のために利用できるよう提携していた自治会もありました。

■車中泊を確認した場所

公共施設	町民グラウンド
	(仮称)光の森多目的広場
	菊陽杉並木公園駐車場 他
民間施設	ショッピングセンター 遊戯施設 などの駐車場

■車中泊に関するアンケート設問と回答(抜粋)

避難形態	避難所等の施設	20.3%
	車中泊	53.5%
	避難せず	29.2%
車中泊の場所	自宅	41.6%
	町内の商業施設	10.5%
	町外	3.0%
車中泊の期間	1~3泊	53.9%
	4~10泊	36.2%



3 救護

本震直後、役場には多くの避難者が押し寄せ、急きょ、負傷者の手当てをする仮設の救護所を駐車場に設営しました。地震後約1カ月間は、24時間体制の救護所を役場庁舎内に設置し、応急手当の体制を整えました。



4 防災対策緊急会議

6月10日、菊陽町防災対策緊急会議を光の森町民センターで行いました。会議には防災会議委員や警察、消防、自衛隊、関係機関約70人が出席。

町は熊本地震の概要や被害状況、災害時の対応策などを説明しました。気象庁からは各種災害の危険性が高まっていることや、今後も最大震度6弱以上の地震に注意するよう説明があり、各機関と情報共有を図りました。



5 インフラ

(1) 道路

町内各地で道路に陥没やひび割れが発生し、車や歩行者の通行に支障を来していました。地震直後から町職員が町内全域を点検し、損傷の大きい道路から優先的に復旧工事を行ってきました。なお、地震から2年以上たった現在も、道路の安全確保を図るため、復旧工事を続けています。



(2) 上下水道

大津菊陽水道企業団が供給する上水道は、一部地域で断水や水の濁り、水圧の低下が発生したものの、4月29日に全ての地域で復旧しました。なお、町が管理する下水道は、停電による中継ポンプ場の一時停止のほかは地震による目立った被害はありませんでしたが、地下埋設管がある一部の道路上において、路面が沈んでマンホールが相対的に上昇し、通行に支障を来す場所もありました。

(3) 電気

4月16日の本震により停電が発生しましたが、同日午後3時ごろにはおおむねの地域で復旧しました。

(4) 都市ガス

配管などの安全性が確認できないとして一時的に供給が停止されていましたが、4月30日におおむね復旧しました。

(5) ガソリンの供給

本震発生後、町内の主なガソリンスタンドには長蛇の列ができ、ガソリン不足が顕著となりました。これは、規模の大きな地震が頻発したことで、町民に不安が広がったためだと思われます。復旧作業用のガソリンも不足しましたが、およそ1週間で落ち着きを取り戻しました。



(6) 商業施設の状況

地震発生後、駐車場が車中泊の車で満たされたり、トイレを24時間開放したりする様子が見られました。小売店では、商品が不足する状況が1週間程度見られましたが、その後は徐々に通常営業となりました。